

# 町民大学



- ◇対象者：一般
- ◇定員：50人程度
- ◇時間：午後1時30分から3時
- ◇場所：下諏訪総合文化センター小ホール・集会室
- ◇受講料：無料

No.	講座名・日時	講師(敬称略)
第1回	「病を克服し短歌に生きて」 6月2日(日)13:30~15:00	歌人 現代口語短歌誌「未来山脈」主宰 光本恵子
第2回	「植物のさまざまなくらし 2」 7月14日(日)13:30~15:00	下諏訪町教育委員会 杉山清
第3回	「諏訪大社下社秋宮と春宮の秘密 —諏訪の立川流と大隅流の火花散る対抗意識—」 8月18日(日)13:30~15:00	諏訪塾塾長・一級建築士 五味光一
第4回	「諏訪地方の猛禽は今」 9月23日(祝・月)13:30~15:00	日本野鳥の会諏訪支部名誉会長 林正敏
第5回	「曾根遺跡はなぜ諏訪湖底にあるのか」 11月10日(日)13:30~15:00	宿場街道資料館 諏訪湖博物館専門研究員 小口徹

☆ 問い合わせ： 下諏訪町公民館 TEL. 28-0002

6月2日(日)「病を克服し短歌に生きて」

みつもと けいこ  
<光本 恵子>

光本恵子の今まで生きてきた道を短歌を通して語る。鳥取から信州の夫のもとに嫁ぎ、大きな病を克服し、曲線を描きながらもこの諏訪人に助けられ、学生時代から続けた短歌の道を中心に発展させ、現在は現代口語短歌誌「未来山脈」を主宰。朝夕、湖畔を散歩し、富士山を眺め、この下諏訪のすばらしさを毎日感じています。最近有志によって下諏訪町の湖畔に歌碑を建立。「星に包まれ山に抱かれ 宇宙に呼吸するひとつのいのち 湖の街 諏訪よ」光本恵子のうた

7月14日(日)「植物のさまざまなくらし 2」

すぎやま きよし  
<杉山 清>

昨年度、身近な植物の暮らしぶりを紹介しました。時間がなくて、前回できなかった水辺や諏訪湖の植物、霧ヶ峰や八ヶ岳の高山・高原の植物の暮らしぶりを紹介します。それぞれの様々なくらしぶりを一緒に見てまいりたいと思います。

8月18日(日)「諏訪大社下社秋宮と春宮の秘密—諏訪の立川流と大隅流の火花散る対抗意識—」

ごみ こういち  
<五味 光一>

「大隅流は童児の時から、後藤立川二つの流儀も合点いたして居ります」これは文豪の幸田露伴が明治25年に発表した「五重塔」の一説です。その3年前に露伴は下諏訪に滞在しており、おそらく下社の秋宮と春宮を参拝したのでしょう。そこで大隅と立川の対立を目の当たりにしたことが「五重塔」の筆をとらせたのではないだろうか。

9月23日(祝・月)「諏訪地方の猛禽は今」

はやし まきとし  
<林 正敏>

私たちが住む諏訪湖周辺には、ふだんあまり見る機会がない各種の猛禽類が生息しています。講座ではたくさん写真を見ながら、食物連鎖の頂点に生きるこれら鳥たちが人間社会の接点でおきている様々な問題点を見つめながら、持続ある未来について鳥類保護の視点から考えてみます。

11月10日(日)「曾根遺跡はなぜ諏訪湖底にあるのか」<小口 徹>

諏訪市の警察署沖の湖底に『曾根遺跡』という1万5千年～9千年前の遺跡があります。なぜ湖底にあるのか、明治～大正時代、日本を代表する学者たちが論争した謎の遺跡です。遺跡が元々水中だったのか、陸上だったのか、陸上ならなぜ水没したのか、当時は解明できませんでした。今回は遺跡が湖底にある謎に迫ります。